

no.

2. 福山資さんから先輩への手紙

以浦海軍航空隊飛行部練習部十四分隊十三班 手田義雄様へ (神戸所東所去函 三巻基中の宛封)

前 前 御覧下さい
私は神像を福山といふ者なり現在三巻基中隊中の五号に在り
此の度貴兄の居る航空隊の練習部を希望致ししところかこ
この試験もパス致しまして二十三日神戸発の列車で上京致すこと
に決まりました貴兄を思い出しまして、さうして一心の知人も
無い私故に御心配をお願ひ致したいと思ひ致し、誠に勝手な
願ひですがどうかよろしくお願ひ致します。上浦隊員が二十三日の
午後の時七分です。二十三日の上は道所旅館に一泊する様子が
す。二十四日の日から試験のあることに決り、貴兄の返答を
候す時と大した変りはないと思ひます。それから今日貴兄の父上様
から激励の言葉を功を大に感心謝致して居ります。
ご返事を左不願ひを

昭和十四年九月三十一日頃

22-12

22-12

3. 福山資さんから母への手紙

昭和十四年九月二十七日 霞浦海軍航空隊へ行き 受験中

拜啓
當地に着てから最早三日間も過ぎました。
受験開始以来無事通過して居ります。
しかし昨日五十分余り、今日五十分余り既に
苗余名の不合格者が歸郷して行きました。
可愛やうなものです。中にはお母あさへや姉
さんへ慰められて泣く、帰って行く者も
あります。そんな場合、自分の身にひきかへて
しさをさぐりしきか増して居ります。直ぐの後
から何帰るものか是非合格せねばと、ふ元氣
かましくと起つて居ります。
何から書くとよいかわかなくなりました。今日の上は、さうも落
付まませず、しんやりと手紙を書き、氣にし
たりませぬ。

22-13

22-13